



アフリカ南部に位置するエスワティニ王国は、自然、伝統、調和に恵まれた美しい山岳地帯の内陸国です。北東部でモザンビークと国境を接し、その他の国境は南アフリカに囲まれています。首都はムババネで、国の北部に位置しています。王国は、ムスワティ3世国王陛下と王太后陛下によって統治され、伝統的な祭典を通じて国民をまとめています。エスワティニ王国では一年を通して四季があり、暖かい季節と涼しい季節の両方を楽しめます。季節ごとに特徴的な日差しや風、雨が訪れる恵まれた気候です。王国の総面積は17,363平方キロメートルで、人口は1,210,822人となります。母国語をシスワティ語とし、英語を第二公用語とするバイリンガル国家です。

エスワティニ王国の国旗の色には、以下のような象徴的な意味が込められています：

青 ————— 平和と安定

黄色 ————— エスワティニ王国の資源

赤 ————— 過去の戦い

スワジの盾と槍 — 敵からの防御。

また黒と白は、エスワティニ王国で協調して暮らす黒人と白人を表しています。



©Expo 2025

エスワティニ王国館



歴史が未来社会を決める：独自性・遺産・未来

展示コンセプト

エスワティニ王国は2018年までスワジランドという国名でしたが、何世紀にもわたり伝統的な文化を大切に守り続けてきた王国として知られています。この美しい国の人々は「エマスワティ」と呼ばれていますが、これは英語の「スワティ」に相当するシスワティ語の複数形です。館内では、豊かな文化遺産と伝統、経済の発展、そして持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取り組みをご紹介します。また、エスワティニ王国の自然や野生動物、世界的に有名なシベベ岩など、さまざまな観光スポットも展示しています。



伝統行事

エスワティニ王国では、伝統的な祭典と現代的なイベントが一年を通して開催され、豊かな文化を彩っています。国王と王妃の両陛下が主催する主要な伝統行事は、ウムランガ（8月から9月）とインクワラ祭（12月から1月）の2つです。また現代的なイベントとしては、ブッシュファイア・フェスティバル（5月/6月）と8月のルジュ・フェスティバルという2大フェスティバルが開催されています。温かなおもてなしの心、親切さ、そして敬意を大切にする姿勢—これらはエスワティニ王国の人々を表す特徴です。訪れる人はまるで我が家にいるような安心感と、現地の人々の輪に溶け込んだような親しみを感じることができます。



エスワティニの宝

エスワティニ王国はビッグ5（ライオン、ヒョウ、ゾウ、サイ、バウファロー）が見られることで有名です。フラネ王立国立公園とムカヤ鳥獣保護区では、カバ、キリン、シマウマなど、伝統的なアフリカの大型野生動物たちを観察することができます。大型の肉食動物ではなく、気軽に野生動物を楽しみたい方には、ムラウラやマロロジャなどのエスワティニ国立トラスト委員会が管理する自然保護区がおすすめです。これらの保護区では、雄大な自然の風景を中心とした体験ができます。もちろん、そこで暮らす野生動物との出会いも楽しめます。エスワティニ王国のもう一つの驚きは、シベベ岩です。世界最大の花崗岩ドームで、世界で2番目に大きな岩として知られています！



インフラ

優れたインフラは生産性を高め、ひいては経済成長の促進へとつながります。エスワティニ政府は長年にわたり、社会のバックボーンとなるこの部分に投資してきました。この国のインフラには道路、鉄道、空港、テレコミュニケーション、エネルギーシステムなどが含まれており、これら全てが、エスワティニ王国を貿易の対象として、また投資の目的地として魅力的なものにしています。現在この国では、太陽光発電、水力発電、バイオマスなどのグリーンエネルギーへの投資を拡大しています。国内エネルギー発電は、投資家が参入する機会を提供する優先分野の一つとなっています。



ガバナンス

エスワティニ王国では「君主制民主主義」が行われており、ティンクンドラ制度に基づいた民主的で参加型の統治システムが実践されています。このシステムの特徴は、中央政府から地方のティンクンドラ（地域自治体）への権限移譲を重視している点と、個人の実力が公職選出や任命の基準となっている点です。エスワティニ王国は政治面でも法律面でも二元的なシステムを採用しており、伝統的な制度（シバヤなど）とローマ・オランダ普通法が国の統治システム全体の中で共存しています。